

令和3年度 学校評価報告書

教育目標	(1) 学力を育む (2) 社会力を育む (3) 人間力を育む (4) 学校魅力化の推進
------	---

4段階評価	A	ほぼ出来た	3.2 以上
	B	概ね出来た	2.6~3.2
	C	やや不十分	2.0~2.6
	D	不十分	2.0 未満

アンケート調査結果(数値1~4で回答)の平均値による区分 ※0:わからないは除く (4:よく出来ている 3:大体出来ている 2:あまり出来ていない 1:出来ていない 0:わからない)

教育方針	重点目標 (学校(各部))	担当 分掌	学校評価質問項目	教職員 評価	生徒 評価	保護者 評価	自己評価		学校関係者評価		改善策
							評価 (昨年)	結果概評	コメント	評価 (昨年)	
(1)	学力の向上 (教務)	教務	補習授業や指導方法の改善を図る。	B 2.9	B 3.1	B 2.9	B (B)	コロナ2年目を迎え、リモート学習にも備えたが、充実した活用には至っていない。生徒・教員1人1台端末導入に向け、有意義な活用となるよう、更なる研修が必要である。資格試験・検定の指導については、各学科及び教科の熱心な取り組みと指導のもと、成果を挙げることができた。	リモート学習に備えた設備の充実が急がれると感じた。資格試験の結果からも充実に指導いただいていると感じている。	A (B)	ICTを活用し、さらに活気のある授業展開になるよう工夫をしていきたい。また、家庭での学習時間の確保に向けた取組も必要である。
			資格・検定情報を提供し、取得のための指導を積極的に行う。	A 3.4	A 3.4	A 3.3					
	(2)	進路実現力の向上 (進路)	進路	「進路だより」等による地元企業の情報提供の充実を図る。	A 3.3	A 3.3	A 3.2	A (B)	制約があった中でも、コロナ感染症対策を徹底し、進路ガイダンスや進路講話、地元企業見学、インターシップ等さまざまな体験学習に取り組むことで、進路意識の向上に繋がった。進路情報をよりタイムリーに「進路だより」で発行することで、情報提供の充実を図ることができた。進路実現に向けては生徒・保護者・教員三者の更なる連携が必要である。	生徒の進路決定に向けて色々な取り組みがなされており、個人面談、三者面談も適切に行われており、進路決定に役立っている。	A (A)
個別面談・三者面談の充実を図る。				B 3.1	A 3.3	B 3.1					
(3)	体験活動の推進	生徒	ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る。	B 2.8	C 2.1	B 3.1	B (B)	今年度もコロナの影響で活動が制限されたが、課題研究等を通じて、公民館等への地域連携を図ることができた。例年、学校は地域との連携・協働に取り組んでいると評価している生徒は多いが、生徒自身の自己評価が低いことが課題である。	地域との連携や協働して活動することは難しかったと思う。体験することは大切で、次に向けて繋げていくことができれば良い。	B (B)	学校側は地域連携に努めているが、生徒の受け止め方に差があるため、アンケート内容について吟味が必要。コロナ禍でもできるような活動を考えていく。
	礼節・規律・生活習慣の確立 (生徒)	生徒	学校生活生活における礼節とマナーの定着を図る。	B 3.1	A 3.2	A 3.2	A (B)	日常的な指導の継続により、頭髪・服装・挨拶について効果が上がっている。引き続き継続的な指導と併せ、コロナ禍における学校内外のマナー向上指導を充実させることが必要である。またコロナ感染症を踏まえたいじめ対応等にも努めていく。	全体的に清潔感ある服装や頭髪をしている生徒が多く、元気の良い挨拶が返ってくる。生徒が理解し、納得する指導を心がけているなど、日頃の指導の成果と思う。	A (A)	今後も生徒や保護者が納得できる指導を心掛けていくことが必要。生徒会等との連携を図り、服装頭髪規程の見直しや改善にも繋げたい。
			積極的な挨拶の定着を図る。	A 3.4	A 3.3	/					
部活動の推進	生徒	部活動を奨励し、健全な心身の育成を図る。	A 3.3	A 3.3	A 3.2	A (A)	コロナの影響で部活動の制限もあったが、昨年度と比較すると、感染症対策を徹底し、全体的には充実した活動ができた。コロナ禍での大会参加等については、保護者の理解と協力が必要である。	コロナ禍ではあったが、よく頑張って成果を上げることができたと思う。部活動は社会において必要なことを学べる場でもあるので頑張りたい。	A (A)	大会で結果を残すことも大切ではあるが、勝利至上にならず目的意識を持った活動をしていきたい。	
(4)	人権教育、インクルーシブ教育の推進	人権	校内研修等で得た情報や知識を常に心がけ、人権に配慮した発言・指導を行う。	B 3.1	A 3.2	B 3.0	B (B)	コロナ禍の影響で、教職員への研修は不十分であったが、担任を中心に、生徒に対してはHR活動等を利用し推進できた。保護者へは人権・同和だよりを発行することで人権意識の高揚に繋がったと考える。	日々の言動に目を向け、小さなことも見逃さないことが大切である。学校全体でのいじめ防止、HR活動での人権意識を高める取り組みがなされており良いと思う。	A (A)	教職員の研修の機会を増やしつつ、保護者へは人権・同和だより等の発行に加え、更なる周知方法を工夫する。
	教育相談活動の充実 (保健)	保健	生徒に関する面談や相談を適切に行っている。	A 3.2	A 3.2	B 3.1	B (B)	担任を中心に、各科及び教育相談CD等が一体となり、個別に生徒の悩みや相談に向き合った。コロナ禍の影響もあり、学校生活以外でも不安を抱えている生徒が多いように感じる。	コロナの影響で生徒の不安が多くあったと思うが、面談や相談を行いしっかり向き合っていたと思う。	B (B)	教育相談CDのみならず養護教諭や他の保健部教員で協力し、生徒の悩みや相談に対応していくために、教員と生徒の信頼関係を築いていきたい。
(4)	校内活動の広報活発化 (総務)	総務	HP・広報活動が十分に行われている。	B 3.0	/	B 3.1	B (A)	昨年度と比べると評価が下がった。保護者から朝の災害時緊急メールによる情報をもっと早くして欲しいとの意見もあり、速やかな判断と素早い情報提供に努めたい。今後もコロナ禍での広報活動は重要であると考えている。	緊急メールの対応や校内行事等の情報発信は保護者にとって安心感があり、構内での状況がわかり評価できると思う。	A (A)	緊急メールの更なる活用法を検討していくとともに、災害時における素早い情報提供に努めていく。HPについては、校内行事を中心に情報発信をできるだけ盛んに行っていきたい。
			HPや緊急メールにより緊急情報が適切に連絡されている。	B 3.1	/	A 3.4					
(4)	ICT機器の活用推進	教務	積極的にICT機器を使った授業等に取り組んでいる。	B 3.0	A 3.3	B 3.1	B (B)	ICT機器を使った授業については、多くの教員が取り組んでいる。昨年度から教員が使用しているポータブルスピーカーは好評である。今後は1人1台端末導入を踏まえ、セキュリティー問題等も含め、円滑な利用方法について教員・生徒共に更なる研修が必要である。授業ではないが、学校評価アンケートで一部ICTを利用したが課題もあり、今後検討が必要。	コロナ禍において良く対応されたと思う。ICT機器利用の促進が図られることにも期待したい。	A (A)	タブレット等のICT機器を使った授業の推進は必須。ただ、それだけに偏った授業にならないような工夫も必要。今後の教員の取り組み(授業改善)が重要課題である。
	新型コロナウイルス感染症に対する適切な対応		B 3.0	A 3.3	B 3.1						